

ApeosWare List Creatorで 全社をカバーする帳票基盤を構築

時間、コスト、セキュリティの脅威を大幅軽減

環境問題などを背景に、多くの企業ではペーパーレス化が進んでいる。だが、お客様への請求書や出荷伝票などは、いまだに紙での処理が求められ、その効率化が大きな課題となっている。山印醸造株式会社(以下 山印醸造)では請求処理の効率化に加え、FAXによる伝票発送などについても課題も抱えていた。これら多彩な出力形態に対応できるのがApeosWare List Creatorであった。同社ではApeosWare List Creatorにより帳票基盤を構築し、2人がかりで1週間かかっていた請求処理を、1人で1日で終わらせている。



山印醸造株式会社
執行役員 生産管理部部長
森永 真氏



山印醸造株式会社
管理部 総務グループ 総務課 係長
平口 学氏

山印醸造は、創業者が1955(昭和30)年に長野県経済連から味噌製造事業を継承して創業した企業である。その後、日本初の急速真空凍結乾燥法によるインスタント食品「ミソープ」の開発をはじめ、発酵技術を活かした中華基礎調味料(醤=ジャン)およびその他の研究を進め、1989(平成元年)年には、農林水産省の「第28回農林水産祭農産部門」で天皇杯を受賞している。

JAブランドとして出荷しているOEM商品の他、小売りでは「無添加 食べ頃仕込み味噌」「無添加 天然醸造仕込み味噌」「新信州無添加味噌」などの仕込み味噌、さらに「豆板醤(トウバンジャン)」「甜麺醤(テンメンジャン)」「蕃椒醤(コチュジャン)」などの醤を製造している。

「当社は創業から50年以上経ちますが、この業界ではまだまだ新参者です。大手とは体力勝負にならないよう、勝てる土俵で戦っています」と、同社執行役員 生産管理部部長の森永真氏は語る。

請求処理に2人がかりで1週間

同社では、その置かれた経営環境から、データを重視したスピーディな戦略立案が求められていた。「しかし、かつては月次処理に時間がかかって、月次決算が場合によっては翌月の10日過ぎに出るよう

なこともありました」(森永氏)。

月次処理の遅れる最大の要因が請求書処理であった。当時はオフコンのラインプリンタを使用しており、それから打ち出された請求書と元帳を分け、請求書は封入封緘処理、元帳は顧客ごとにファイリングしていた。請求件数が毎月500件ほどあり、これらがほぼ終了しないと月次処理を開始できない。

「終日こればかりしているわけではないにせよ、一連の処理に2人がかりで1週間ほどかかっていた」と、同社管理部総務グループ総務課係長の平口学氏は振り返る。

この処理時間を少しでもスピード化しようと、同社で取り組んだのが紙の元帳ファイリング作業の省略であった。顧客ごとに元帳を整理する代わりにデータをオフコンからCSV形式で出力してExcelに読み込み、顧客からの問い合わせに対応することにしたのである。

「これで元帳ファイリングの作業は不要になりましたし、伝票の検索時間は劇的に早くなりました。ただし、Excelデータ改ざんなどのセキュリティ面での課題が新たに出てきました」と森永氏は指摘する。そこで、同社では元帳をPDF化して保存、あるいはスキャニングして電子的に保存などの方法の検討を重ねた。

また当時社内では、出荷案内や発注処

● PROFILE

山印醸造株式会社

本社 〒175-0094
東京都板橋区成増1-30-13
設立 1955(昭和30)年10月1日
資本金 1億8000万円
従業員数 147名
業務概要 味噌醸造と販売、中華調味料素材および製品の生産と販売、FD(急速真空凍結乾燥)食品の販売などに従事する中堅メーカー。JAへの納品の他、一般小売りも展開。小売りでは他社とのコラボレーション製品の開発にも取り組んでいる。
ホームページ <http://www.yamajirushi.co.jp/>

導入事例 山印醸造株式会社

理の作業負荷も大きな課題となっていた。出荷案内の郵送作業は毎月2000件近くになる。この封入封緘作業と、控へのファイリングは現場の大きな負荷であった。

発注処理においては、仕入れ先にFAXで伝票を流しており、この作業も複雑な手間となっていた。

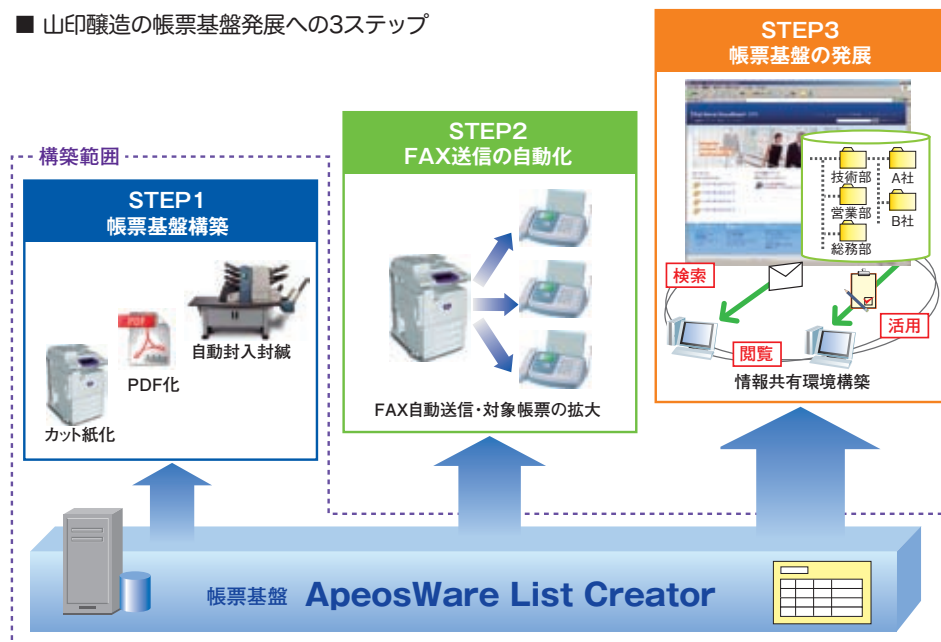
PDF、複合機、FAX向けに帳票封入封緘用OMRコードも印字

こんな悩みを抱えていた頃、富士ゼロックスから提案されたのがApeosWare List Creatorによる帳票基盤の構築であった。ApeosWare List Creatorなら、帳票をPDF化してフォルダ保存したり、複合機で出力したり、FAX送信したりできる。

請求書はPDFにしたり複合機で紙出力したりする。PDFに書き出したものはフォルダに保存し、問い合わせや監査などに対応する。複合機に出力したカット紙請求書はインサーター(封入封緘機)と組み合わせて、自動封入封緘できる仕組みを構築した。ApeosWare List Creatorであれば、封入封緘を自動化するためのOMR(Optical Mark Reader)コードも印字可能だ。さらにFAX出力にも対応。オフコンからデータをダウンロードして生成した伝票を、仕入れ先にFAX送信する。

これら提案を聞き、実際にデモを見たのが2008年12月。「まさに探し求めていたものはこれ、当社にピッタリの解決策

■ 山印醸造の帳票基盤発展への3ステップ



でした。その場で導入を決めました」と森永氏は述懐する。

他システムにも対応する 全社帳票基盤に発展へ

細かな仕様を詰めて、2009年4月から構築を開始、7月から稼働している。「それまでは2人がかりで1週間かかっていた作業が、1人1日で終わるようになりました」と平口氏は語る。具体的にはオフコンのラインプリンタで3~4時間かかっていたプリントが、富士ゼロックスの複合機ならわずか15分で、またやはり2人がかりで3~4時間かかっていた封入封緘作業は、1人だけで3時間で終わる。

「この3時間も確認のためのものです。封入封緘作業自体は完全に自動化されて

いるのですが、0円の売上金額でも請求書を送ってくれというお客様と、請求書は不要というお客様が混在していらっしゃいます。その確認などの時間です」(平口氏)。

お客様からの問い合わせへの対応時間も早くなった。PDFだから、セキュリティにも不安がない。「これで当面の課題は解消できました。でも、構築した基盤のポテンシャルは、こんなものではありません。当社には出力に問題を抱えているシステムがまだいくつかあります。経理システムもそうですし、工場の生産管理システムもそうです。そんな帳票処理にも、今回のシステムは活用できると思います」と森永氏は目を輝かせる。新システムは全社帳票基盤として、大きな期待が寄せられている。

富士ゼロックス株式会社

〒107-0052 東京都港区赤坂9-7-3

Tel 03-6271-5111

<http://www.fujixerox.co.jp/>

FUJI XEROX 